

1. 登下校の見守りとあいさつ運動

1 あいさつ運動

「あいさつ運動」は、日常生活を通して近隣、知人相互間のもとより、地域内で接する者に対し声かけを行うことにより、地域における連帯意識を向上させ、犯罪を抑止する運動です。

あいさつは、地域住民の心の交流です。自宅近くの道路や公園などで交わすあいさつは、地域コミュニティを高めるとともに、犯罪を防止して地域の安全・安心を確保する効果があります。「おはよう」「こんにちは」「お変わりありませんか」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」

明るく元気なあいさつのキャッチボールで、隣近所が支え合う明るい社会と事件事故のない安全で安心できる地域づくりに協力してください。

(出典：社団法人福島県防犯協会連合会ホームページ)

<http://www.bouhanfukushima.com>

あいさつ運動の事例①

兵庫県尼崎市「大庄小学校」

大庄小学校校区では、2004年4月より登下校時にPTA、ボランティア、学校職員、警察が連携し見守り活動、あいさつ運動を行っている。活動に参加しているボランティアは毎朝約50名（平成20年度）に達し、自宅前や校区のポイントに立ち、登校する子どもたちとあいさつを交わしている。



あいさつ運動の事例②

東京都杉並区馬橋地区「ご近所つきあい広目隊」

馬橋地区は区内でも犯罪多発地域のひとつで、特に空き巣の被害が多く、街にはごみや自転車の違法駐輪などが放置され、街の掲示物が古く破れたまま放置されている地域であった。

そんな地域を改善しようと約30名の住民有志が中心となり自治会と一体となって、あいさつ運動の励行と定期的な防犯パトロールを実施し、平成15年1月～5月までのこの地区の犯罪件数は、前年の同時期の52件に対し、16件と激減した。また、同年の6月には月間犯罪数0件を達成した。

(参考：「防犯まちづくり」山本俊哉著/株式会社ぎょうせい、杉並区ホームページ <http://www2.city.suginami.tokyo.jp/>)

2 あいさつ・声かけ運動の推進事業

社団法人 青少年育成広島県民会議の取り組み

社団法人 青少年育成広島県民会議では、あいさつ・声かけ運動推進のためのキャラクターやテーマソングを作成している。

(<http://www.hiro-payd.or.jp/aisatu/index.html>)



あいさつ運動の事例①

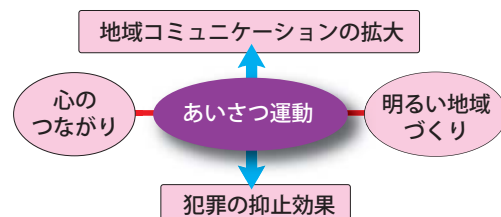
1 登下校の見守りとあいさつ運動

登下校時の見守り

地域社会では、出会った人にあいさつを励行することで、登下校する児童や生徒たちを見守ることができるばかりではなく、地域の連携を強め、犯罪抑止力も高めることができます。犯罪を企てようとする者は、あいさつや声かけで目撃されることを嫌がり、犯罪を躊躇すると言われています。地域でのあいさつ運動は、身近な犯罪を防ぐ上で大きな力となります。



子どもたちの登下校時に家の周りの掃除や草花の手入れをしながら「おはよう」「おかえり」と声をかけるのも、小さな見守りです。防犯パトロール中に出会った人へあいさつをすることは、地域活動のPRになるだけでなく、地域住民の防犯意識の向上にもつながります。また、既に活動しているグループと情報を交換することによって、より効果的な活動を展開することもできます。



2 犯罪者 ・目撃されたくない ・声をかけられたくない → 犯罪を躊躇

「あいさつ運動の日」を設定して地域で活動

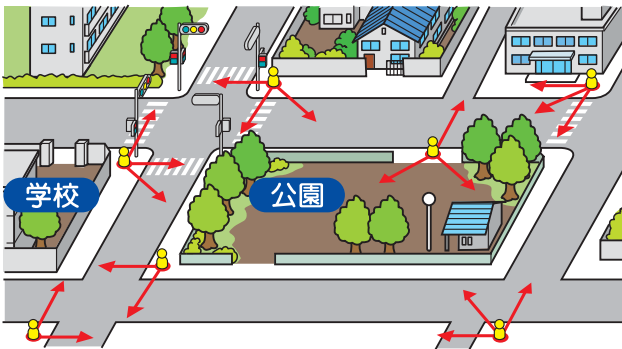
3 あいさつ運動のポイント

あいさつをしない子どもに対して、あいさつを行うことを強要したり、怒ったりしてはならない。中には人見知りであったり、恥ずかしくてあいさつができない子どももいる。子どもたちが応えてくれるまで、自然とあいさつができるような環境を作っていくことが大切である。

また、子どもたちだけでなく、地域の人たちにもあいさつを行い、地域の人達の交流を広げていく必要がある。

●あいさつ運動で立つ場所

どの通りも見通せるところに立つのがよい。



4 家庭・学校での対応

子どもからあいさつをすることを、家庭・学校で教えていきましょう。

地域の人に子どもの顔を覚えてもらうことは、日常の中で子どもを見守る目を増やすことにつながります。また、子どもの様子がおかしい場合に、地域の人が気がつきやすくなります。

また、ボランティア活動をしている人にとって子どもたちとあいさつを交わすことは活動を続けていくモチベーションの一つになります。

(参考：「防犯先生の子ども安全マニュアル」著：清永賢二、「子どもの防犯ワークブック」著：小宮信夫)

3

規準表 (51a) 活動を地域全体に広げ、意識を持続させることができる。
 (42b) 校外での安全管理の取り組みについて問題点を把握し、その改善策を企画・実行できる。
 ねらい ①あいさつ運動や地域巡回活動などへの保護者の協力依頼ができる。
 ②あいさつ運動を実施することで期待できる効果について説明できる。

1

4 あいさつ運動の進め方

家庭で、学校で、地域社会で、人に会ったら、人と接したら、必ずあいさつをします。あいさつをされたら必ず応えましょう。子どもたちの元気なあいさつをほめてあげましょう。あいさつは、明るく安心な地域社会をつくれます。社会の変革は、一人ひとりの小さな実践から始まります。広報誌や回覧板、学校だよりなどを通して繰り返し啓発活動を行ったり、「あいさつ運動の日」やあいさつ週間・月間などを設け意識を向上させることが大切です。



また、住民一人ひとりが体育祭やレクリエーションなどの地域活動に積極的に参加することで、顔見知りが増え、あいさつがしやすくなるという環境も整います。

■子どもへ声をかけるときの留意点

- ・最初は少しはなれて（子どもの身長以上）。
- ・顔と名前を覚えて、数回目には名前を呼んで声をかけてあげる。
- ・子どもの目を見て、やさしく。
- ・勉強のことは控えめに、どんな遊びをしているかなど。
- ・顔見知りになった子どもには、肩を軽くたたいてあげるなどのスキンシップも。

5

＝ビデオ資料＝ (関連ビデオ→ あいさつ運動、あいさつ運動の効果)

※事例を参考に、あいさつ運動のポイントをまとめましょう。

Column

地域での共通理解のもとでの適切なあいさつ運動は、コミュニケーションの拡大や安全な地域づくりに有効です。しかし、顔見知りの方が罪を犯す事例などもあり、場合によっては弊害を招くこともあります。子どもたちの適確な判断能力も必要です。

5 石垣小学校区での取り組み

沖縄県石垣市石垣小学校区シルバーモーニングサービスでは、小学校、幼稚園での朝の見守りとあいさつ運動を行っている。

ただ「おはよう」と言うだけではなく、「今日は元気？」、「朝ごはん食べた？」など、子どもたちが答えやすい問いかけをしてコミュニケーションのきっかけを作っている。

また、子どもたちだけではなく、通学の中高生、一般の人にもあいさつを行うことで地域の意識を高めていっている。効果としては地域での声掛け事案の減少、地域コミュニケーションの活性化が挙げられている。



6 子どもを守る気持ちを保つ

子ども安全ボランティアの活動で怖いことは、活動に参加するボランティアの方の「子どもを守ろう」という意識が低下してくることでです。

「今日も危ないことがなかった」と思ううちに、「きっと明日もないだろう。自分が活動をやらなくても危ないことなんて起こらないだろう」という気持ちになってしまうのが最も危険なのです。

「今日も危ないことがなかった」というのは、子どもの安全対策が成功しているという「結果」なのです。

「今日も子どもを守ることができた」「明日も子どもを守ろう」という気持ちで取り組んでください。

積極的なあいさつ

パトロールや見守り活動を行っているときは、子どもたちだけではなく、すれ違う多くの人にぜひ明るいあいさつをしてください。子どもを守る活動をしていることをアピールすることができ、地域住民の防犯意識の向上も期待できるうえ、連帯感が生まれ、明るい町づくりにもなります。

また、子どもとの信頼関係を築き上げるためにも、あいさつのほかに「行ってらっしゃい」「おかえり」「天気がいいね」などと気軽に声をかけてあげましょう。

さらに、犯罪者は「地域の目を嫌う」（近所の人に見られたり、声をかけられたことで犯行をあきらめる）というデータがあることから、あいさつで犯罪を未然に防ぐことも期待できます。

（出典：「始めよう！ 続けよう！ 子ども安全ボランティア」 東京都、警察庁）

7 参考ホームページ

登下校時の安全確保に関する取組事例集

(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/12/05120900/007.htm)

全国の小中高の、学校における登下校時の児童生徒の安全確保の取り組みの事例が紹介されています。

8 緊急時における登下校の対応 (学校向け)

登下校の安全確保のための緊急対応が必要であると判断した場合は、教職員はもちろん、地域住民、保護者、ボランティア等が連携して、防犯パトロールや子どもの引率等を実施することが必要です。

校長は、緊急の対応を実施することを全教職員に周知し、事前に定められた役割分担に従い、直ちに具体的な対応を行うことにより、子どもの登下校の安全確保を図ることが求められます。

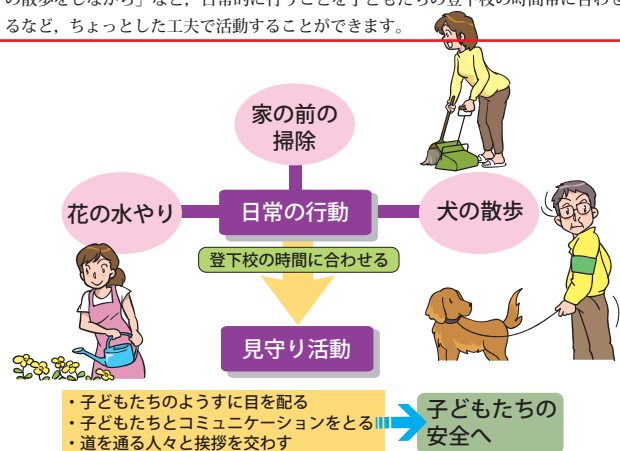
また、地域住民、保護者、ボランティア等の対応状況を確認した上で、必要に応じて学校が行う緊急対応への支援を求めるなど、地域と効果的に連携することが必要です。さらに、緊急時には、近隣の学校等へ周知するとともに、教育委員会に対し、近隣の学校等への情報提供や警察等との連絡・調整を図ることを要請することが重要です。

登下校時の見守り活動とポイント

見守り活動の方法

地域の環境・特性を考慮して、地域ぐるみで子どもを守るという意識を高め、「見守り活動」の参加者一人ひとりが協力者から参画者になっていただけるような「見守り活動」を展開していきましょう。

見守り活動は、ある一定時間、同一場所にとどまる（立っている）などして、登校（下校）してくる子どもたちを見守るというものです。パトロールと違い、自宅前の路上で立っただけでも立派な「見守り活動」といえるので、体力に自信のない方や高齢の方にもお勧めです。また、「掃除をしながら」とか「花に水をやりながら」とか「犬の散歩をしながら」など、日常的に行うことを子どもたちの登下校の時間帯に合わせるなど、ちょっとした工夫で活動することができます。



日常生活の中で参加できる見守り活動を

1. 安全確保までの子どもの保護と保護者への引渡しや集団登下校を行う。

- (1) 子どもの現在の状況（登校中・下校中，登校前・帰宅後など）を把握する。
- (2) 下校前の場合は，安全が確保されるまで学校に待機させる。
- (3) 子どもだけでの登下校が難しい場合には，保護者への引渡しや保護者の引率による集団登下校などを行う。

※ 登校前であれば，必要に応じて自宅で待機させる。また，登下校中であれば，地域住民・保護者・ボランティア・警察等に，緊急に子どもの安全確保への協力の要請する。

2. 地域住民・保護者・ボランティア・警察・教育委員会への支援要請を行う。

- (1) 保護者，現場や危険のある場所に近いボランティア，地域防犯関係者等に，防犯パトロールの実施を要請する。
- (2) 警察には，情報の提供と緊急の防犯パトロール等を要請する。

(3) 教育委員会には，国私立，都道府県立，市区町村立を問わず，域内の学校等に対する情報提供や警察などとの連絡・調整を要請する。

3. 必要に応じ，教職員等による緊急防犯パトロールを実施する。

必要な場合には，通学路を中心に情報収集と安全点検のため，地域住民，保護者，ボランティア等と協力あるいは分担して，教職員による緊急の防犯パトロールを実施する。

※必要に応じ，近隣の学校等へ連絡する。

必要な場合には，直ちに被害の及ぶ恐れのある周辺の学校に対し，周知する。

(例：中学校から，校区内に所在する県立高等学校等へ連絡。)

地域（地域住民・保護者・ボランティア等）における取組

1. 緊急防犯パトロールを実施する。

- (1) 通学路の安全を点検し，不審者の発見や情報収集を行う。
 - ※ 必要に応じて，公園や子どもの遊び場など通学路以外の場所の安全点検を行う。
 - (2) 子どもの登下校時刻に合わせた防犯パトロールを実施する。
- #### 2. 保護者同伴の集団登下校を実施する。
- #### 3. 学校が行う緊急対応を支援する。

(出典：「学校の危機管理マニュアルー子どもを犯罪から守るために」文部科学省)

規準表（24a） 登下校時などの子どもの安全に関する活動の効果と実施方法について指導できる。

- ねらい ①登下校時に注意するポイントについて具体的な指導ができる。
 ②登下校時の見守り活動が必要な箇所を把握している。

9

見守り活動のポイント

①できるだけ毎日続ける

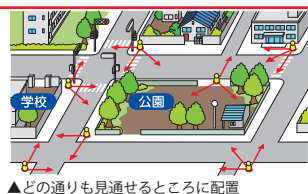
毎日同じ場所で見守り活動を行うことにより，登下校してくる子ども達とも顔見知りになります。いつもと様子の違う子や，いつもの時間になっても登下校しない子どもなど，子どもの異常にいち早く気付くことができます。また，子ども達に見守り活動をしている姿を見せることで，「守られている」という安心感を与えることができます。

②人目の届かないところで，時には場所を変えて

できれば，子ども達の通学路で人通りの少ない道路や路地で見守ってあげましょう。また，時には1ブロック隣の路地に立つなど場所を固定せずに見守ることで，場所に隙がでず，効果的な活動を行うことができます。

③バランスの良い配置を

「見守り活動」を行う場合は，できるだけ配置場所に偏りがないようにしましょう。ボランティアの皆さんで話し合ったり，学校で配置場所の見直しを行うなどして，バランスの良い配置ができるようにしてください。



▲どの通りも見通せるところに配置



4

見守り活動の注意点

●見守り活動とわかるように

ただ自宅前に立っていたり，路地や交差点に立っているだけでは，子どもたちも警戒し，かえって不審者と思われかねません。服装や腕章，帽子などで「見守り活動」を行っていることをアピールし，積極的に子どもに声をかけてあげましょう。

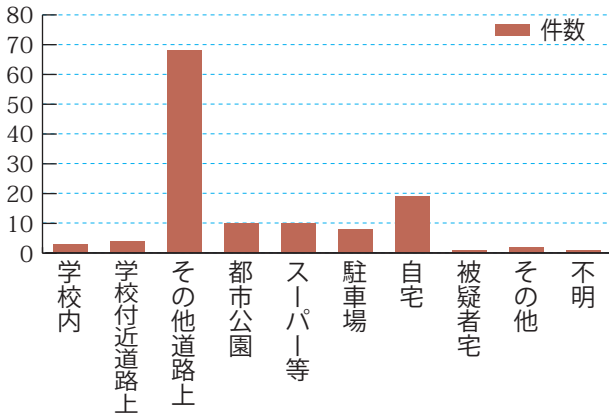
9 左記本文出典

「始めよう！ 続けよう！ 子ども安全ボランティア」
東京都，警察庁

(http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/vol_manual/index.html)

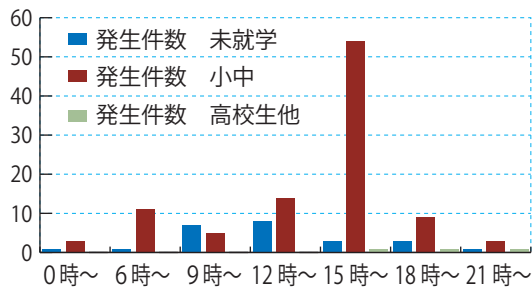
10 略取誘拐事案発生場所

15歳以下の子どもを対象とする略取誘拐事案発生場所 (平成15年1月1日～10月15日 警察庁)



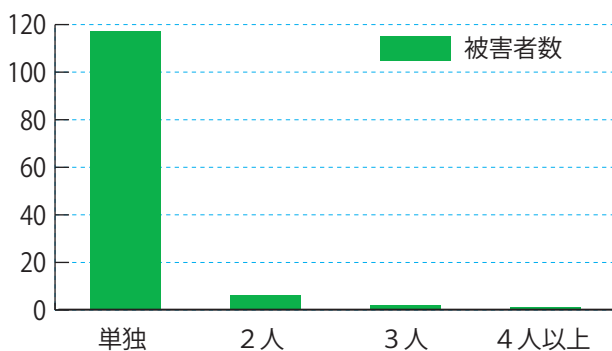
11 略取誘拐事案発生の時間帯

15歳以下の子どもを対象とする略取誘拐事案発生の時間帯 (平成15年1月1日～10月15日 警察庁)



12 略取誘拐事案被害者の人数

15歳以下の子どもを対象とする略取誘拐事案被害者の人数 (平成15年1月1日～10月15日 警察庁)



13 保護者、学校、教育委員会や地域住民に対する助言・連絡

① 子どもとともに通学路の点検を実施し、必要に応じてその見直しを行い、登下校時は、多少遠回りでも人通りの多い安全な道路を通学路として利用させること。

この場合において、具体的に不安があるときは、集団登下校に配慮すること。

② 学校や自宅周辺の見回りを行うこと。

③ なお、声かけ事案や変質者その他、不審者の出没があったときは、子どもにその旨を教えるとともに、具体的な対処要領をその都度指導すること。

(出典：「子どもの略取誘拐事案を防止するための指導啓発の推進について」警察庁)

10 12

通学路での安全

警察庁の統計によると、子どもの略取・誘拐の発生時刻で最も多いのが「15～18時」、発生場所は「その他道路上（通学路などで、学校付近以外の道路上）」です。つまり下校時は子どもが最も犯罪に遭いやすい場面だといえます。通学路の危険から子どもを守るためにはどうすればよいのでしょうか。

毎日使う通学路こそ、最も安全性を高くしたい場所です。決められている通学路だからすべて安心というわけではありません。角に家が建った、通過車両が増えたなど環境が変わり安全から危険に変わる場所もあります。実際に歩いてみて、危険を見逃さないように通学路をチェックし、注意すべき場所を子どもに教えます。

登下校で最も基本的なことは、必ず二人以上の複数で登下校することです。特に下校は注意が必要です。同じ学校に通う近所の家族や地域で話し合い、交代で付き添うなどして、複数での登下校を徹底させましょう。



▲子どもの略取・誘拐の発生が最も多い時刻

近所の友だちと二人以上での登下校

通学路の危険箇所を大人たちでチェック

ビデオ教材 (ビデオ→ 登下校の見守りとあいさつ運動)

※見守り活動とあいさつ運動のポイントについてまとめてみましょう。

14 「いかのおすし」の由来

学校における不審者侵入による痛ましい事件をきっかけに、平成16年度にセーフティー教室を開催する際、「こどもたちの心に残るインパクトのある防犯標語」として、警視庁少年育成課と東京都教育庁指導企画課により考案された。

いかのおすし教材ビデオ

ポリスチャンネル「いかのおすし」

(<http://www.police-ch.jp/video/13/003920.php>)

15 その他の防犯標語

つみきおに

ついていけない…知らない人に声をかけられてもついていけない。

みんなと、いつもいっしょ…一人で遊んだりどこかへ行ったりしない。

みんなと、いつもいっしょにしよう。

規準表 (24a)	登下校時などの子どもの安全に関する活動の効果と実施方法について指導できる。
(21b)	防犯のポイントについて、地域住民や子どもたちに説明することができる。
(23a)	家庭で行う防犯対策の方法を理解している。
ねらい	<input type="checkbox"/> ③通学路やスクールゾーンにおける危険箇所を把握し、点検できる。 <input type="checkbox"/> ①子どもが被害者となる犯罪が発生しやすい時間帯を知っている。 <input type="checkbox"/> ③「いかのおすし」などの標語について説明できる。 <input type="checkbox"/> ④子どもが家に入る際の注意点を指導できる。

一人になったら

自宅の手前では一人になってしまいます。一人で家に入る時は、カギは人に見せないようにしてドアの前で出し、付近に不審な人がいないかを確認してカギをあけ、家の人が不在でも大きな声で「ただいま」と言って入るように教えてください。オートロックマンションでは、入口の周囲に不審な人がいないかを確認して部屋の番号を押すように教えてください。また、エレベーターに乗るときは、一人または知った人と乗るようにし、どうしても他の人と乗るときは、ボタンの側に立つように教えてください。(→p.25)

登下校時に知らない人に声をかけられたら、被害に遭わないように次の行動をとるように指導することも一つの方法です。

覚え言葉「**イカのおすし**」=警視庁考案

イカ=行かない (知らない人について行かない)
の=乗らない (知らない人の車に乗らない)
お=大声をあげる (「助けて!」と大声をあげる)
す=すぐに逃げる
し=知らせる (周囲の大人に知らせる)

■「イカのおすし」について

Webで調べてみよう:

<http://www.naash.go.jp/branch/tokyo/rensai/rensaikanoosushi.html>

Column
 地域の環境によって通学路での危険な場所は少しずつ違いがあります。自分の地域ではどのようなところに注意すべきか、どのようなところが危険か、実際に通学路を歩き、話し合ってみるとよいでしょう。
 また子どもの目線と大人の目線では、見え方や見えるものが違います。地域の学校と協力し、子どもたちと一緒に歩きながら通学路を点検する機会を設けるとよいでしょう。

13

きちんと知らせる…出かけるときや何かあったときはきちんと知らせる

おおごえで助けを呼ぶ…知らない人に連れて行かれそうになったら、大声で助けを呼ぶ。

にげる…こわいと思ったら、すぐになげる。

5つの約束

- 1 「一人であそばない」
- 2 「だれとどこ? いつかえる? か家の人に知らせてから出かける」
- 3 「知らない人についていかない」
- 4 「何かあったら大声で助けを呼ぶ」
- 5 「友達が連れて行かれそうになったら大人に知らせる」

16 安全な場所, 危険な場所

テキスト p.24 ~ p.25 (解説書 p.22 ~ p.23)「どこが安全? どこが危険?」参照。

青色回転灯パトロール

(次ページ「2. 防犯パトロールの進め方」関連。)

平成16年12月から、一定の条件を満たす団体には、防犯パトロールに使用する自動車に青色回転灯を装備することができるようになった。この青色回転灯を装備した車両による防犯パトロールを、青色回転灯パトロール、あるいは青色防犯パトロールという。

東京都内では、青色回転灯パトロールが行われている地域の多くで、それ以外の地域よりも犯罪発生率が減少しているという検証結果が示されている。

青色回転灯を装備した防犯パトロール車両の数は、全国で約3万台(平成21年12月末)あり、前年比約1.15倍である。(警察庁調べ)

青色回転灯パトロールの実施状況

